

令和 5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	H20年8月1日
		指定年月日	H20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	(〒231 - 0823) 神奈川県横浜市中区本牧大里24-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和 年 月 日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先 <https://www.reiwakaigo.co.jp/facility/tsubaki/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気な中で、介護をする事に力を入れています。顔見知りのスタッフと共に、季節のイベントや普段のお手伝いなどを通じて、生活リハビリに取り組んでいます。
感染対策のため、外出を制限される状況が続いていますが、園内で少しでもご入居者様に楽しんでもらえるイベントを企画・実施しております。
直近の感染状況を鑑みて、地元の町内会が開催するイベントに参加させて頂いております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和6年2月8日	評価機関 評価決定日	令和6年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇地域の伝統文化に参画して地域交流

・今年度初めて、町内会の祭りの神輿やお囃子の待機場所として駐車場を1週間貸し出した。祭りの3日間は、利用者もお神輿に触れたり、お囃子の笛や太鼓、獅子舞を間近で観るなど伝統芸能を楽しんだ。地域に事業所の存在を再認識してもらう機会となり、来年度以降も祭りの運営に参画することになった。

◇その人らしく自立した生活の維持をサポート

・リビングの入口壁に利用者の写真を貼り、利用者の出身地や趣味、得意な事を書き、新しい職員や応援の職員に情報提供をしている。イスや居室に名前を大きく掲示し、座る場所が分かるなど、利用者は一人で行動ができています。入居時より介護度がさがり、車椅子から歩行器に、オムツからリハパンへと改善した例がある。

◇利用者の自立を促し生活を豊かにするイベント

・地域の縁日に参加のほか、事業所内で流しそうめん、スイカ割、焼き芋、たこ焼きパーティ、花火等、月2回平均でイベントを開催し楽しんでいる。

【事業所が工夫している点】

◇「本牧つばき園通信」の発行

・「本牧つばき園通信」を毎月発行し、お花見やお祭り、誕生会、クリスマス等の行事での利用者の楽しそうな様子、笑顔あふれる日常の生活を写真とコメントをつけて家族に送り感謝の言葉を得ている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	本牧つばき園
ユニット名	はまなすユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		✓	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		✓	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		✓	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		✓	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		✓	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		✓	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1 ###	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた運営を行っています。特に地域の町内会への交流に力を入れています。	・理念を事務室と玄関に掲示し、ユニット会議等で確認している。 ・職員は利用者が毎日楽しく過ごせるために何が必要かを考えケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域密着を意識して、町内会の活動に参加。お祭りでは「お神輿の待機所」として園庭を提供、間門小学校の「こども110番の家」にも参加しています。	・大里町本牧神社の祭りではお神輿やお囃子の待機場所として園庭を貸し出し、町内会の方と交流している。 ・コロナ禍前は町内会のお餅つきに参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、情報発信を発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内にて、撮影した写真をご覧頂き運営している雰囲気が伝わるようにしています。	・利用者家族、民生委員、地域包括センター職員等の参加で2か月に1回開催している。 ・活動報告、情報交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な連絡を行い、協力関係を構築に努めています。	・区の生活支援課や高齢・障害支援課とは業務上の相談・報告を行っている。 ・グループホーム連絡会は日程の関係で参加できていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化の研修を定期的に行い、予防に努めています。	・管理者が本部の身体拘束適正化委員会に年4回参加し、結果を事業所で、内部研修を4回行っている。 ・身体拘束適正化のための指針を整備し、毎月のユニット会議で、事例を挙げて話し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、活用できるように努めています。	・虐待防止の研修を行い、利用者をお客様として、言葉遣いに気をつけるように話している。 ・職員は利用者が穏やかに過ごせるように、一人ひとりに声をかけ、手伝いをしてもらうなどしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い、活用できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約または解約時は事前に説明を行い、特に勘違いしやすい項目に関してはわかりやすく説明できるように工夫しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で頂いたご意見・感想はできるだけ職員へ共有するように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のユニット会議を開催し、その他の意見や提案がある場合には「申し送りノート」や「夜勤送り用メモ」などを活用しています。日々の業務の中で情報収集をおこなっています。	・月1回のユニット会議や勤務中の会話から職員の意見や提案を聞いている。 ・利用者ケアや物品の購入等の提案があり、可能なかぎり反映させている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤時はもちろん、常にコミュニケーションをとり、得意な分野へ役割をあてがい苦手な分野は話し合いを設け一緒に取り組む事につとめています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修を設定し、在籍職員に社内研修を受ける機会を設けています。また、経験の少ないケアについては実践を通し、ベテラン職員とともに指導をしています。	・認知症基礎研修は会社負担で受講を勧めている。 ・年間研修計画を作成し、職員に社内研修の受講の機会を設けている。 ・経験の浅い職員にはOJTで指導をしている。	・現在ユニット会議の時間に研修を行っていますが、今後は、計画的に研修時間を設けることが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の系列施設に訪問する機会を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご契約前に御本人と面談させて頂き、ご入居に向けての不安や心配事を聴き取り、ご配慮できるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居される前にできるだけご要望を聴き取り、不安を解消できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の情報を介護現場とも共有し、ご入居初日から適切なサービスを受けられると共に入居から1週間ほどのじょうほうを分析し見極め、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉遣いにも配慮しつつ、ご改定にしているような親しみのあるケアを実践しています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度のご家族への手紙で御本人の日常生活を伝え、電話や面会をする機会などを設けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間に限りはありますが、事前予約制面会を行い、ご入居者様と馴染みのある方と一緒に過ごして頂けるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に提出されたアセスメントシートや家族の話から利用者の生活歴や馴染の場所を把握している。 ・コロナ禍前は知人が訪れる機会もあったが、現在は友人の訪問はほとんどない。 ・電話での取次ぎを行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、一緒に話しながら交流がもてるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡を頂いた時には、可能な範囲で相談や支援などを行っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前情報をもとに出来る範囲でお手伝いさせて頂いておりますが、困難な場合は本人様に寄り添いながら検討することに努めています。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の会話から利用者の思いや希望を把握している。 ・会話が困難な場合は、表情や仕草等から思いを把握している。 ・把握したことは、申し送りノートと介護記録に記録し職員間で共有している。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報やご本人様との会話の中から少しでも情報収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や連絡ノート・危険因子等を含め、職員一同が情報共有に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録やユニット会議での日常の情報を共有すると共に、職員からの意見やアイデアやご家族様からの意見を反映し、介護記録を作成しています。	・毎日モニタリングし、記録する個別の介護記録やユニット会議の情報、家族や医療関係者の意見を入れて、ユニットリーダーが介護計画見直しを行っている。 ・ケアプランは6か月ごとに見直し、追加があればその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・危険因子などで情報共有を行い、日々のケアに反映させると共に見直す点の意見をユニット会議などで話し合い、日々のケアに反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室担当者を任命し、月に一度のご家族への手紙やご本人様からのご意見を柔軟に応えられるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭礼や縁日などに参加を行い、入居者様が参加できるように支援しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前にかかりつけ医からの情報提供を得て、ご希望があれば繋がりのあるかかりつけ医の往診も可能となっています。	・利用者の1名はかかりつけ医を利用しているが、他は提携内科医の月2回訪問診療を受けている。週1回事業所の看護師による健康チェックを受けている。 ・歯科医の訪問診療を月1回受け、同行の歯科衛生士による口腔ケアを受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の職員による健康チェックを月に4回程度行っています。得られた情報は「訪問診療看護記録」に記入し、介護職員や往診医にも共有できるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ADL表の提供や日々の様子を含めて、情報提供を行っています。また、医療関係者と連絡を取り合い退院にむけての相談やその後の経過においても密に連絡をしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と意志の面談や連絡をする場を設け、家族・御本人の意向に沿いながら職員に情報共有し、不安なく関わられるように取り組んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時に重度化した際の指針を説明し、看取りを実施していない旨を説明したが、昨年度末に2人の緊急的な看取りを行なった。 ・急遽メンタルケアを実施し、今後は体制があれば看取りを行うことをユニット会議で確認した。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応手順・連絡先を掲示し、急な事態になっても手順通りに対応できるように指導しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し、定期的な訓練を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間想定を含め年2回防災訓練を行なったが、今年度は消防署と日が合わず、単独で実施した。 ・食料品3日分、水は5日分を備蓄し、リストで管理している。 ・法人が、全ホーム共通の事業継続計画（BCP）の策定を検討している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内にて個人情報保護・接遇マナー研修を行い、日々の業務の中で注意しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・1階と2階の利用者認知度及び職員の熟練度に乖離があり、配置換えや職員研修を行い人格尊重等の質の均一化を推進中である。 ・入浴等の介助は同性介助に努め、さん付で声掛けし、職員間の会話では部屋番号を使用している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	残存機能を失わないように御本人が着替えの洋服を選んで頂いたり、パンの訪問販売ではご自身で好きなパンを選んで頂くなど選択肢を提供するようなコミュニケーションを心がけて支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご気分が優れず入浴したくないとおっしゃた時は「時間をずらす」「日を改める」など柔軟な対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を忘れないように洋服選びのお手伝いをしています。また、定期的な訪問理美容での支援をしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きなど、できる範囲のお手伝いをしています。行事での食事では目で楽しんで頂けるように工夫し、調理レクでは職員と一緒にエプロンを付けてお手伝いをしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年秋にチルド食納入業者を変更し、味や量の改善が見られた。 ・利用者とパンケーキ、月見団子、たこ焼、焼肉、バーベキュー等の調理レクを行っている。 ・事業所のレクでは、出前や行事食の工夫をして楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「排泄チェック表」にて水分や食事を把握し、水分が苦手な入居様には好みの温度に調整したり、居室で好きな時に飲めるように工夫し、提供するなど、一人ひとりの状態に合わせた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医を受信する事で異常がないかのチェックとお客様の状態に合わせた無理のない口腔ケアを行っています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導のタイミンや下剤の調整を行い、できるだけご自身の力でできるように支援しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表で自立に向け、優しくトイレ誘導をしている。 ・夜間は睡眠を優先し、夜間おむつからパッド利用者が増えた。 ・オムツからリハパン、車椅子から歩行器に移行した改善例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分をとって頂いたり、おやつに寒天ゼリーを召し上がって頂くの対応をし、無理のない範囲で散歩や体操への参加をして頂いております。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	季節に応じ、菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しみ懐かしんで頂けるような支援を行っています。 また、湯船の温度は出来る範囲でご入居者様の好みに近づけるようにしています。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回以上を基本に、時間帯等は極力要望に応じている。 ・入浴剤は足下が不安になり使用していない。菖蒲湯やゆず湯で季節感を楽しんでいる。 ・入浴中は、職員と思い出話や世間話でゆったりと楽しんでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋にて休んで頂く時間を設け、室内の温度設定に配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも内服情報を参照できるようにしています。また、症状の変化があった時は情報共有し、往診医に相談できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園庭での花を職員と一緒に植え、成長を楽しんで頂いたり、出来る範囲でお手伝いを依頼して気分転換できるように配慮しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園庭での外気浴や近所への散歩ドライブなどの外出支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・好天時は園庭での外気浴や近所への散歩等の支援をしている。 ・ドライブで遠出し、桜や紫陽花鑑賞等を楽しんでいる。 ・家族と通院の帰りに外食したり迂回して馴染みの景色を見に行く等の外出を楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な範囲でお買い物などの支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のご家族には電話で話す機会を提供しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせてユニット内の飾りや玄関への飾りをし、季節感を失わないように配慮しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関、廊下、居間等は清潔に保たれ、廊下には書初めや季節の絵等、利用者の作品が飾ってある。 ・ユーチューブに繋いだ居間のテレビで懐かしの歌番を見ている。 ・居室ドアとドア上部の廊下に張り出る位置に名前が付いている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性や性格を見て、気の合う方ではできるだけ席が近くなるように配慮しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある家具や写真などを持って来て頂いています。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室にはエアコン、クローゼット、照明が設備され、利用者はテレビ、ベッド、写真、仏壇、お気に入り家具等を持ちこんでいる。 ・居室の清掃や衣替えは職員が支援して居心地が良い環境づくりに努めている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や案内板などを廃止し、少しでもお一人で行動できるように配慮しています。		

事業所名	グループホーム本牧つばき園
ユニット名	りんどうユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	✓	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	✓	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	✓	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	✓	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	✓	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	✓	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1 ###	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念のとおり地域への社会参加に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の活動に参加し、お祭りでは神輿待機所として提供しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて情報発信をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加できないご家族には、書面にて意見を確認する機会を設けています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話での対応にて、積極的に協力関係を築くよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	研修等を定期的に行い、身体拘束の適正化に努めています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を定期的に行い、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を開催し、活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約または解約時は事前に説明を行い、特に勘違いしやすい項目に関してはわかりやすく説明できるように工夫しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡や日々のやり取りの中で頂いたご意見をユニット会議やミーティング等で職員へ周知をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日々のコミュニケーションの中で、情報収集を行っています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務の中でコミュニケーションをとりながら実施。また面談等でも意見を収集をし、環境整備に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を行い、社内にてケアの実践と力量を把握し、話し合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の系列施設に訪問する機会を設け、また会議等に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴しながら本人様が安心して過ごせる様に関係づくりを努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご要望等に耳を傾け、不安なく過ごせる様に関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談等でご要望を伺い、情報共有をし適切なサービスが行える対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のコミュニケーションを通じて、親しみのあるケアをする様に努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話にて事前予約を取って頂き、人数・時間制限つきですが面会して頂いています。面会が出来ない場合には、電話やお手紙にて機会を設けています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様本人より写真を見せて頂いたり、場所を調べて話をするなどの支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様同士で交流が持てる様に支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な範囲での支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	面談等での事前情報を元にできる限りお手伝いをさせて頂いています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様との会話の中から情報収集に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一同の情報共有をし、会議等で話し合いをしております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やショートミーティングにて、日常の様子を共有しモニタリングしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート等での情報共有を行い、日々のケアへ反映させております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居室担当を決め担当者がニーズに対応し、支援しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の祭り等での待機所として提供する事で、入居者様も参加することが出来ております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療等を利用し、ご家族様への情報提供を行い支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師の職員による健康チェックを月に4回程度行っています。得られた情報は「訪問診療看護記録」に記入し、介護職員や往診医にも共有できるようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医との連携を取り、ADL表の提供や日々の様子を連絡し、情報共有を行っております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての取り組みを検討しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所とリビング(職員待機場所付近)に急変時の対応手順を掲示しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成し、定期的な訓練を行っております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内にて研修を行い、日々の声掛けにも気をつけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の想いを聞き、意思決定をして頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の希望を伺い、居室で過ごして頂いたり、その人らしい生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を忘れない様に洋服選びをお手伝いしています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食や月1回の訪問販売のパン屋にて、いつもの違う食事や選ぶ楽しみを感じてもらえるにお手伝いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が足りない利用者には声掛けを行ったり、好きな飲み物を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を受診したりする事で、異常のチェックをし口腔ケアを行っております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	下剤内服の一覧表を作成・掲示しています。また「水分・排泄チェック表」にて、トイレ誘導のタイミングを把握。自立支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ水分補給をして頂き、無理のない範囲で体操を行って頂きます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ゆず湯や菖蒲湯等も実施し、入浴する事の楽しみも支援しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人様の体調に合わせて、居室にて休んで頂く時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を参照出来るようにファイルにて管理しています。また、急変時等は往診医に相談できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる範囲でお手伝いを依頼して、気分転換をできる様に支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染リスクに配慮しながら、園庭や近所の公園に散歩等を行い支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様のお話を聴き、買い物に行くことも検討しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居様やご家族様のご要望に合わせて、電話を取り次ぐ支援をさせて頂いております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを行い、季節感を忘れない様に工夫しております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席替え等を実施し、気の合う方と話しができる様に工夫しております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある家具や写真等を持参して頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や案内板等に配慮し、1人でも行動できる様に工夫しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム
本牧つばき園

####

作成日 令和 年 月 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	ベテラン職員と新人職員とのケアの実際と力量との差が目立っている。	在籍する全ての職員が高い水準の介護サービスを提供できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・座学による研修の実施 ・ベテラン職員による介護の実践研修の実施 ・外部の研修会に参加する機会を設け、新しい知識・技術を共有 	1年
2	33	重度化や終末期に向けた支援を引き続き行えるようにする	入居者様が住み慣れた環境で最期まで過ごす事ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な研修の実施 ・ユニット会議で終末期ケアに関する話し合いの時間を設ける ・看取り対応を実施した職員のメンタルをケアする仕組みを考える。 	2年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。